

皆按申配意有難う
ひさしい

司
二宮公羽夜話
11/8(水)

第8回 10/11(水) 資料

天・地・人のつち々回にわたって

天の巻(報徳の振元)を講義してきつた。

。今回が地の巻(報徳の法則)にうつり

講義することにしよう。

第三篇 因果輪回の法則

八二 p.122 陰陽を結んで相統する

- 。草木は空中(陽)と地中(陰)で生ずる。
- 。人間も男(陽)と女(陰)との結んで相統。

八三 p.123 運と因果の理
運は運転の運、回らあわせ

易、坤の卦の文「運」
「積善のふり余慶
積不善のふり余殃」

。仙教には三世の説ある。
釈迦かまはまの昔から行わぬは

。天地向の道理である

。肉眼を肉けて、心眼を開いて見ねばならぬ。

。不統の統

「声もなく臭もなく常の天地は

書もある統を解り返して

八四 p.125 豆の三世 (豆のあせは草) 草のあせは豆

○ 不止不転循環の理

八五 p.126 輪回循環の理と人道

○ 果樹の手入れ法 「年切りかきよう」

○ 翁の教へ「貧を言ひし、衰えにのみ盛人にし、

循環輪転を脱して、富を

かゝ盛人も地位にあきさせざる道」

八六 p.127 清浄汚穢の循環

八七 p.127 前もつて「因」を種め

柿の木で「因果の理を説明する」
人間も同じ「後悔先に立たず」
「か」に悔め

八八 p.129 因果と天命との差別)

○ まつた種かほえる 因果の道理

(徳教かいは天命とらう)

○ 上意「天命」

○ 縁り耕作培養

八九 p.130 陰陽循環の定則

九〇 p.130 陰陽は相対する

九一 p.131 不止不転循環の理

(仏教) (徳教)

九二 p.131 色則是空の空則是色の意味

目に見る 目に見ざる 目に見ざる 目に見ざる
は 自覚禪師の坐禅和讃

九三 p.132 古池の句は有無の観

「古池や蛙飛山辺む水のおと」芭蕉

九四 p.133 己ま志は一因観

己という物と取り捨てる工夫の肝心である。

「志己復礼」(論語 顔淵篇)

見性・悟道 転迷 (仙教)

(私を捨て捨てる修行)

九五 p.134 有常無常は本因観

(世界にはもともと吉凶も禍福も苦楽も増減もない)

九六 p.135 草と種 彼岸

(F. 僧者大田錦城の悟意「漫筆」にある)

「登岸」とは凡夫の境域を離れて聖人の域に

九七 p.135 諸行無常の悟り (仙教)

(迷い→悟り→成仙)

九八 p.136 貧富には明白な原因がある

(F. 節侯・勉勵「まじろ」に集まる)

「自誠明。謂之性。自明誠。謂之教。誠則

明矣。明則誠矣。」(中庸 第二十章)

九九 p.138 一家一國興廢の因果

「農民一家を以て天下の因果の興廢存亡同し」と

「一家仁一國興。仁一家讓一國亂」(孟子)

一人貧矣一國作乱 其核如此 (大孝の)

一〇〇 p.140

善因善果、悪因悪果